

「いのちにありがとう」
ぼくのおかあさんは、かんごしたまのいつも、いのちの
たいせつさを教えてくれるんだ。いのちは、ひとり
づつかな、すごくすごく、たいせつなも①のなん
だって。

いのちがあるから、おいしいごはんをたべるこゝろが
できるんだ。おともだちと遊ぶこゝろ、からこゝろで
べんぼうをすることも、いのちがあるからできるんだ。
いのちがなくなったら、うれしいことも、たのしいことも、
かなしいこともなくなっちゃう。かぞくにもあることも、
おともだちにもあることもなくなっちゃう。

ぼくは、しぬことがしても、ちいんだ。いのちは、
1つしかないから、いじまったら、いけなくなることを
できない。かぞくかおともだち、みんなぼくにとって
たいせつなひとたち。みんなたいせつなひとたちが、
いじまうことをかんとすると、かなしい時もちに
なっちゃう。

ひとはみんな、たっ、たっ、ひとりひとりのとくべつなみんながい
たよね。もし、いじまったら、そのひとの
がかりになれるひとはいらないよね。

ぼくは、これからは、おとうさんとおかあさんから
もらったいのちをたいせつにしていきたいと
おもっているよ。たっ、たっ、ひとひとのたいせつないのち、
ありがとう。